

2017年5月16日

## 企業、行政、地域との連携・協働に関する基本方針

関西学院大学 教務機構  
ハンズオン・ラーニングセンター

関西学院大学 教務機構 ハンズオン・ラーニングセンター(以下、センター)は、2017年4月、本学のSGU(スーパーグローバル大学創成事業)構想の柱である「ダブルチャレンジ制度」3プログラムの1つ「ハンズオン・ラーニング」を推進するため、開設されました。

また、開設に際して、従来キャリアセンターおよび共通教育センターで提供してきた科目を移管し、学生が所属する学部に関係なく「キャンパスを出て、実社会を学ぶ」実践的・体験的な教育プログラムを恒常的・継続的に提供し、開発・運営する体制を整えました。

国の「教育再生実行会議」が平成25年5月28日に発表した「これからの大学教育等の在り方について」(第三次提言)では、「3.学生を鍛え上げ社会に送り出す教育機能を強化する。」という章において、次のような提言がなされています。

「大学は、課題発見・探求能力、実行力といった(中略)社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、(中略)大学において、学内だけに閉じた教育活動ではなく、キャリア教育、中長期のインターンシップ、農山漁村も含めた地域におけるフィールドワーク等の体験授業を通じた社会との接続を意識した教育を強化する。」

センターでは、こうした考えを理解する一方で、これからの社会を担う若者が実社会で求められる能力を身につけ、社会変革に貢献する、という本学のスクールモットーを一段と推し進め、大学の存在を改めて問うという課題に真摯に向き合っていくべきと考えています。学生は4年間で概ね卒業します。3年生からはゼミに入り特定の専門領域・テーマについて深めていくわけですが、3年生後半からは就職活動がスタートするなど、社会に「出る」ための備えが十分ではありません。また、卒業に必要な単位の修得は順調であったとしても、学生は、一つ一つの学びを深め、その連関を意識し、具体的なアクションに取り組む十分な時間、機会を与えられているとは言えません。

本学では、学生を「大学という組織に属している社会人」と認め、企業・行政・地域との連携・協働を通じて、学生とすでに「出ている」社会との関係を構築していきたいと考えています。従来、大学は人材を社会に送り出す機能をもって評価されてきた面がありますが、こうした考えに安住することなく、本学は、大学が企業や行政、地域と同じく、個人を組織や集団を編成しつつ社会の中にある存在であるという認識を新たにし、本プログラムを通じて、独自の社会人像をもった人材育成に取り組めます。

学生が現代社会に向き合い、自らの立ち位置を確認し、自ら問題を設定し、課題に向き合う姿勢、学問的技術を修得できる組織的な工夫や仕掛けが必要です。センターでは、「キャンパスを出て、実社会を学ぶ」実践的・体験的な教育プログラムを中心に提供していますが、社会での学びを一過性の「体験」に終わらせず、大学生活や将来を含む社会を探究する学修者を育成していきます。

以上を踏まえ、センターでは、以下の教育プログラムに関する基本方針に賛同いただける企業、行政、地域の皆様との連携・協働を推進していきます。

1. 視野の拡大、視座の確立  
主な履修者は1年生及び2年生です。入学早期から所属学部での学びに加え、多様なテーマでの学びを通じて、学生の視野の拡大、視座の確立を目指します。
2. 徹底した思考、言語化の鍛錬  
現場での実践的な学びを通じて、自らの思考を言語化する作業を徹底的に行います。そのために、入門科目で思考のトレーニングを行い、「現場に出て、実際に見て、聴いて、感じる」ための準備を行うことで、現場での学びの充実、活性化を目指しています。
3. 主体的・能動的、継続的な学修者の育成  
現場での気づき、驚きからさらに深く学ぼう、学びたいという主体的・能動的学習者を育成していきます。このことにより、ゼミ等を含めた大学生生活だけではなく、将来にわたって学び続けることのできる力を養成します。

なお、センターから協力、協働をお願いする教育プログラムにおいて、注意している点は次の点です。

1. 公益性・公共性が高いこと
2. 営利目的ではないこと
3. 学生の安全性が高いこと
4. 学生への教育的配慮が伴っていること
5. その他、本学の教育理念に反しないこと

本プログラムは、大学としての本学の独自性を発揮するためのチャレンジです。即効性や即応性の面で必ずしも満足していただける内容にならないことが予想されますが、将来を担う若者と共に、将来を見据えて共に切磋琢磨し合う組織や集団(企業、行政、地域、大学)のあり方を模索していきたいと考えています。

ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

以上